

# スポーツ大学における喫煙率に関する研究

中川 浩太郎 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 高橋 正行

キーワード：タバコ、喫煙率、びわスポスマイルプロジェクト、

## 1. 諸言

本学は 2003 年の開学当初から学内全面禁煙となっている。さらに 2010 年 9 月から「びわスポスマイルプロジェクト」が立ち上げられ路上や電車でのマナーに加え、学内だけではなく学外でも喫煙者をなくす取り組みが実施されています。

しかし、本学の学生の喫煙率は年々減少しているが、学年が上がるにつれて増加する傾向にある。スポーツに関わり、健康や喫煙、タバコについて授業を通して学んでおり、このことから喫煙率の減少が期待されるが、喫煙コーナーを設けた施設が多く存在する。学生の喫煙率の減少には影響されていないと考える。

そこで本研究では、質問紙調査より本学の学生の喫煙率が前年度までの喫煙率と比較し、どのような変化があるのか調べていく。また質問紙内の加濃式スコアから喫煙に対する意識調査を行い、意識と行動の矛盾を調査する。

## 2. 研究方法

2011 年 4 月に実施された、健康診断時に本学の学生にタバコについて無記名の自己記入による質問紙調査を実施した。質問紙より項目別に集計を行う。対象は 2011 年度 1~4 年次生の男女 1139 名。今回実施した質問紙調査の他に過去の 1~5 期生の調査結果 (喫煙率) も用いた。

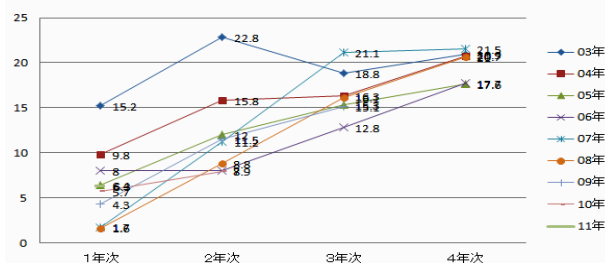
## 3. 結果と考察

男子学生の喫煙率年次推移から、過去の研究結果にも現れたように入学時の 1 年次の喫煙率は年々減少傾向にあるが、学年が上がるごとに喫煙率が増加していることがわかる。しかし、女子学生喫煙率年次推移の 2008 年入学生と 2009 年入学生は減少傾向にある。さらに  $\chi$  二乗法で検定したとこ

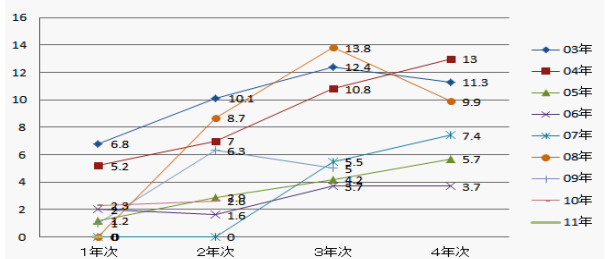
ろ  $p=0.05$  以下となり有意な違いを認めた。

加濃式社会的ニコチン依存度調査票を用いたタバコに対する意識調査では、点数が高いほど喫煙を美化・合理化しているとされているが、やはり喫煙者は  $23.09 \pm 6.44$ 、非喫煙者は  $19.06 \pm 5.96$  と差が見られた。これも  $\chi$  二乗法の検定をしたところ  $p=0.05$  以下と有意な違いを認めた。

男子学生喫煙率年次推移



女子学生喫煙率年次推移



## 4. まとめ

女子学生の 08 年、09 年入学生の喫煙率が減少傾向にあるのに対し、男子学生喫煙率年次推移から学年別にみると 1、2、3、4 年次生と喫煙率が上昇する。加濃式スコアと禁煙についての考えの結果より意識と行動の矛盾が明らかとなった。

## 参考文献

びわこ成蹊スポーツ大学 2010 年度 卒業研究  
「スポーツ系大学生の喫煙率についての研究」  
藤岡 愛